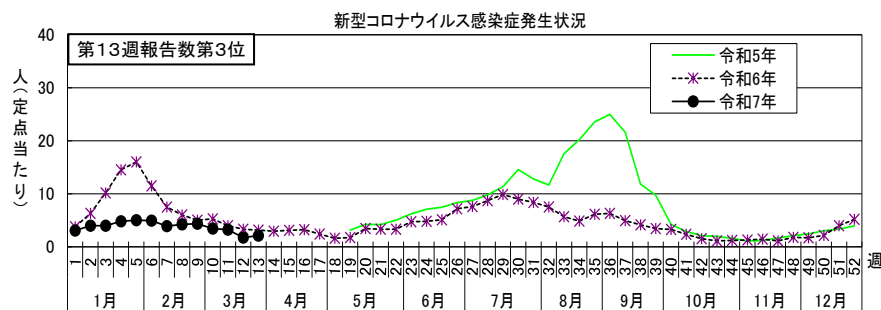
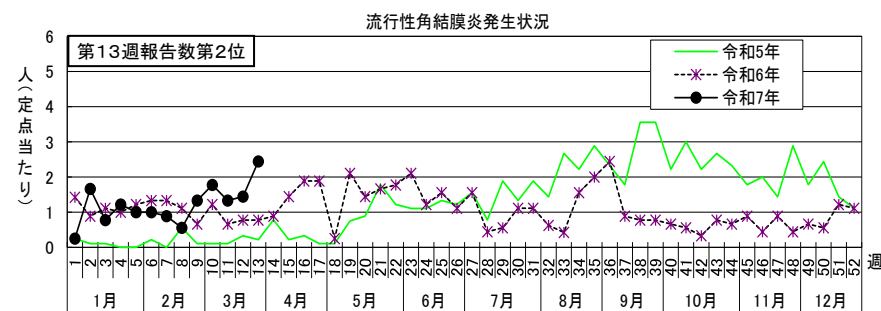
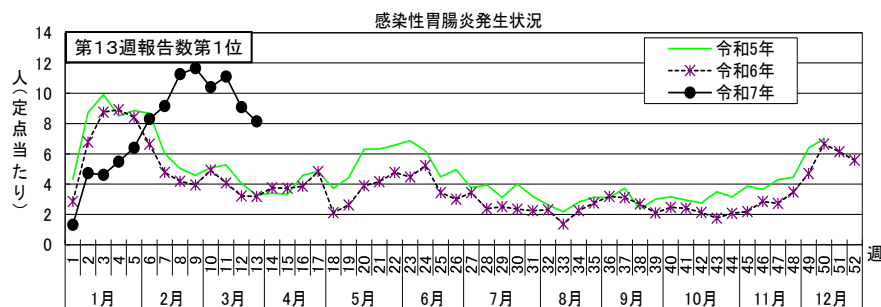


今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和7年3月24日（月）～令和7年3月30日（日）〔令和7年第13週〕の感染症発生状況

第13週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1）感染性胃腸炎 2）流行性角結膜炎 3）新型コロナウイルス感染症でした。感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は8.14人と前週（9.08人）から横ばいで、例年よりかなり高いレベルで推移しています。流行性角結膜炎の定点当たり患者報告数は2.44人と前週（1.44人）から増加し、例年よりかなり高いレベルで推移しています。新型コロナウイルス感染症の定点当たり患者報告数は2.08人と前週（1.74人）から横ばいです。



百日咳の流行が続いています！

川崎市においては、令和7年第13週（3月24日～30日）に百日咳の報告が11件あり、令和7年の報告数は計51件となりました。年齢階級別では15歳未満の小児が中心であり、全体の92.2%を占めています。

百日咳はかぜ様症状で発症し、次第に短く激しい咳が連続してみられるようになります。特に、生後6か月以下の乳児は、呼吸停止等がみられ死亡することもあります。成人では気付かずに感染していることもあるため、乳児に接する可能性のある方は、咳が続く場合には早めに医療機関を受診しましょう。早期の適切な抗菌薬使用により排菌期間が短くなり、感染拡大を防ぐことができます。

百日咳とは

【病原体】

百日咳菌

【感染経路】

咳やくしゃみ等による飛沫感染、接触感染

【主な症状】

- ①カタル期：5～10日間の潜伏期間の後、かぜ様症状で始まり、次第に咳の回数が増えて程度も激しくなる。
 - ②痙攣期：短く激しい咳が連続して起こり、息を吸う時に笛のような音が出る咳発作がみられる。
 - ③回復期：激しい咳が消失した後も、発作性の咳が継続する。
- ※乳児期早期では特徴的な咳がみられず、無呼吸状態から呼吸停止となることがあります。

【予防方法】

百日咳含有ワクチンの接種（5種混合ワクチン等）

